

科目責任者 吉田 久博 (薬物体内動態学教室)

■ 教育目的

薬剤学（医療薬剤学）は医薬品を適正に使用するための科学である。本講では、疾病の理解、適正な薬物選択、的確な用量・用法の設定、治療効果や副作用をモニターするための項目の設定、医薬品相互作用など具体例に触れつつ学ぶ。主要な疾患の薬物治療について薬物の薬理作用、疾病に伴う体内薬物動態と感受性の変化に基づいて、より実際の薬物治療を症例研究を通じて学生が主体的に学習に参加し、臨床実務研修に対応できる能力を養う。

■ 学習到達目標

1. 医薬品の副作用安全対策について理解し、評価できる。
2. 薬物相互作用の原因を理解し、臨床上重要な相互作用を正しく評価できる。
3. 薬物動態の視点から、薬物治療の評価や用法・用量の設定ができる。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：テキスト・配布資料を中心に講義を行うので、当該部分について目を通しておく。

復習：授業ノート、配布資料に再度目を通し、授業内で触れた内容について理解を深める。

■ 授業内容

1. 医薬品の副作用安全対策について理解する。
2. 薬物相互作用の原因を理解し、臨床上重要な相互作用を正しく評価する。
3. 薬物動態の視点から、薬物治療の評価や用法・用量が設定できる。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	医薬品の副作用	副作用発現に影響する因子	13 (1) -3-1～2
2	医薬品の安全性	安全性対策	13 (1) -3-1～2
3	相互作用	薬物相互作用発症機序	13 (4) -5-1～2
4	TDM	薬物投与設計	13 (5) -2-4～5
5	生物学的同等性	医薬品のバイオアベイラビリティ、後発医薬品の生物学的同等性	13 (5) -1-2
6	複雑な薬物動態	2-コンパートメントモデル、モーメント法、非線形薬物動態	13 (3) -1-4、8、9
7	臨床薬物動態	薬物動態情報の見方と収集	13 (5) -1-1～12
8	//	経口投与後の AUC の決定要因	13 (5) -1-1～12
9	//	動態パラメーターの変動要因解析	13 (5) -1-1～12
10	//	動態パラメーターの変動と生理的因子との関係	15 (3) -2-1～3 15(3)-3-1
11	//	動態パラメータの変動に及ぼす遺伝的要因	15 (3) -1-1～3
12	//	循環器系作用薬の投与設計	13 (5) -2-1～5 15(3)-5-1
13	//	呼吸器疾患薬の投与設計	13 (5) -2-1～5 15(3)-5-1
14	//	抗菌薬の投与設計	13 (5) -2-1～5 15(3)-5-1
15	まとめ		

■ 授業分担者

No.1～6：吉田 久博、No.7～15：高橋 晴美

■ 成績評価方法

学期末試験（100％）により評価する。

■ 教科書

『生物薬剤学』 林、谷川原 編（南江堂）

『臨床薬物動態学』 緒方 編著（丸善）

『臨床薬理学』 日本臨床薬理学会 編（医学書院）